

⑪【単年度】出雲大社周辺エリアにおける新たなモビリティの安全性・活用可能性の検証と観光二次交通を活用した観光MaaSに係る社会実験(島根県出雲市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- 観光二次交通を活用した観光MaaSの試行、出雲大社周辺における多様なモビリティの安全性・活用可能性を検証する。
- MaaSの取組みと新たなモビリティを組み合わせた運用については、有効性が期待され、先行事例となる可能性が高く、推奨すべき取組みとなること。

2. 実験内容、実験結果

- ①超小型モビリティ(シニアカー)の貸出実験
⇒錯綜現象は計67件確認されたが、このうち危険と判断できるものは1件
- ②電動キックボードの安全性評価
⇒安全性の満足度は75.0%であり、評価基準として設定した80%を下回った
- ③出雲大社版観光MaaSの検討
⇒シニアカー利用者及び同行者のお得な電子チケットの購入意向は87.1%



シニアカー走行状況



電動キックボード走行状況

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
神迎の道は、道幅も狭く両側に電柱もある。安全に走行できるか心配である。	警察との協議や試走から、神迎の道を走行することは問題ないと判断し、推奨ルートとして設定した。 利用者アンケートでは、人が多い神門通りだけでなく、神迎の道でも危険を感じた人がおり、本格実施の際は走行ルートの危険箇所をより丁寧に説明する必要がある。
「シニアカー」という名称では、興味を持っても利用しない人がいる。	本実験では、「シニアカー」という名称について利用者がどう感じるのかも調査するため、名称は変更しなかった。 利用者やヒアリング調査の結果から、高齢者に限定される印象を受けるという意見もあったため、本格実施の際は名称を変更することも検討する必要がある。
貸出等の手間もあり、運用方法などを検討しないと事業として成り立たない。	シニアカー単体での事業ではなく、周辺の施設等と連携し、地域全体でシニアカーの貸出を行うことを検討する必要がある。
乗ってもらえなくても、現地に車いすの代わりにする乗り物があるという優しさを演出するのも良いと思う。	観光客に対するおもてなしの移動手段として、シニアカーを貸し出すなど、地域内の各交通モードの位置づけを整理し、連携・運営体制を検討していく必要がある。

⑪【単年度】出雲大社周辺エリアにおける新たなモビリティの安全性・活用可能性の検証と観光二次交通を活用した観光MaaSに係る社会実験（島根県出雲市）

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
シニアカー貸出の活用可能性はあると判断できるが、利用者、同行者ともに約半分の人が走行中に「危険を感じた」と回答しており、本格実施に向けては安全対策の課題が浮き彫りになった。また、運営に関してもきめ細やかな対応が求められ、必要となる人員体制、費用からすると事業収支を均衡化することは困難であるなどの課題があることもわかった。	本実験の結果をもとに、市関係各課において課題の整理、あり方等の協議・検討を行う。
今回、貸出店舗側の諸事情により実験期間内での貸出は実施されなかったため、実験準備段階からの情報共有や関係者の試乗による部分的な操作性、安全性の検証を行うことはできたが、十分とは言えない結果となった。	民間事業者において本格的に貸出を実施されることから、利用状況等を関係者間で情報共有し、あらためて安全性の検証を行う。
今後、観光MaaSの導入について具体の検討を進めていくうえで、まずは提供するサービスの検討や既存の情報サイト、スマホアプリとの連携・活用などの導入方法の検討が必要である。	まずは観光MaaSの導入に向けた課題の整理、あり方について検討を行う。

5. 今後のスケジュール

- R6年度 シニアカーの貸出、観光MaaSの導入に向けた課題の整理・あり方の検討、電動キックボードの安全性の検証
- R7年度 シニアカーの貸出に係る課題の解消に向けた取組、観光MaaSのサービス内容、導入方法の検討
- R8年度 (条件が整えば)シニアカーの貸出実施、観光MaaSの導入

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 今回のシニアカーの貸出実験では、多くの利用者が歩行者等との接近、接触への不安を口にしていた。使用する車両の選定にあたっては、価格、操作性とともに安全機能についても考慮することが望ましい。
- ・ 車両メーカーに対しては、自動車に準じる安全機能が搭載された車両の開発とともに、メーカーにより異なっているアクセル、ブレーキ等の操作方法について、業界で仕様の統一を図ることにより、事故の減少につながるものとする。